

温暖化問題とその対応

温暖化問題は今後の人類の抱えるもっとも難しい問題の一つである。気候変動枠組条約では、温室効果ガスの大気中濃度を人類にとって危険でないレベルで安定化することを目標としてうたっているが、このレベルがどの程度であるのか、科学的にはきわめて不明確である。本講演では、この点をめぐる議論をまず紹介する。次に、そのレベルで安定化を実現するにはどうしたらよいかを考える。いろいろなシナリオがすでに作られているが、基本はエネルギー利用の効率化と一次エネルギーの脱炭素で、特に後者は密度の薄い自然エネルギーの利用を大幅に拡大しなければならないだけにさまざまな工夫が必要になる。また、こうした流れの中では、排出された二酸化炭素をなんらかの形で大気に出さない形で貯留する技術が一つの実用的技術として必要になるが、その開発の現状はどうだろうか。

また、これらの解説を通じて、人類文明の今後のありかたを総合的に考えてみたい。

講 師 茅 陽 一 氏

(地球環境産業技術研究機構副理事長)

略 歴

昭和32年 3月 東京大学工学部電気工学科 卒業
37年 3月 東京大学数物系大学院 修了・工学博士
53年 4月 同 教授
平成7年 3月 東京大学名誉教授
7年 4月 慶応義塾大学大学院 政策・メディア研究科 教授
10年 4月 (財)地球環境産業技術研究機構・副理事長/研究所長
16年 2月 科学技術振興機構・研究主監
京都大学、名古屋大学、慶応義塾大学、立命館大学の客員教授を歴任

専 門: エネルギー・環境システム工学

著 書: エネルギーアナリシス(電力新報社 1980年)
社会システムの方法 (オーム社 1986年)
エネルギー新時代 (省エネルギーセンター 1987年)
地球時代の電気エネルギー(日経サイエンス 1995年)他 十数冊

学会活動: 電気学会・平成5年度会長

エネルギー資源学会・会長(平成9-12年度)等を歴任

国際的活動: IASA(国際応用システム解析研究所・在ウィーン)アドバイザー 他多数

政府関係活動: 総合エネルギー調査会会長(平成16年6月まで)

産業構造審議会地球環境小委員会委員長、環境管理規格審議委員会委員長 他多数

受 賞: 電気学会平成7年度功績賞他 学会賞多数

エネルギーフォーラム賞、日刊工業新聞出版文化賞(平成4年)

東京都科学技術功労者(平成7年)

環境功労者(平成9年)